

概 況

1 畜種別取扱高

平成5年中の当市場における畜産物の総取扱高は、頭数51万4千余頭、重量8万9千余トン、金額941億8千余万円となっており、前年と比べると頭数で0.6%増となったものの、重量で7.9%減、金額で10.9%減であった。

畜種別にみると、牛の取扱高は、頭数13万3千余頭、重量5万7千余トン、金額807億3千余万円で、対前年比は頭数で0.8%、重量で11.0%、金額で9.4%それぞれ減であった。

豚の取扱高は、頭数38万1千余頭、重量3万1千余トン、金額134億4千余万円となっており、対前年比は頭数で1.2%増となったが、重量で1.7%減、金額で18.8%減であった。(表1参照)

2 産地別取扱高

牛では、頭数・重量は、千葉県が昭和54年以降、15年連続の第1位であったが、金額は岩手県が過去5年間第1位であった栃木県と入れ替わった。岩手県は、頭数、重量においても、それぞれ前年比15%、13%増加した。他では、宮城県、茨城県が頭数、重量とも前年を10%以上伸ばしたが、埼玉県は前年と比べ、頭数で28%、重量で29%、金額で42%それぞれ減少した。

輸入部分肉は、前年実績の重量で67%減、金額で60%減と大幅に後退した。特に、アメリカ国は前年実績の重量で84%減、金額で77%減と激減した。国内部分肉は、重量で27%、金額で52%の増となった。

豚では、岩手県が頭数・重量・金額とも前年実績を下回ったものの第1位であった。他では、栃木県が頭数・重量とも30%以上増加し、福島県もそれぞれ20%以上伸ばした。また、取扱高は少ないが、愛知県は大幅な伸びを示している。(前年比、頭数558%、重量438%、金額413%)

なお、豚の輸入部分肉が重量、金額とも僅かだが、平成5年1月から実質的に初めて取扱われている。(表1～2参照)

3 年間市況

牛の全国取引頭数は、149万3千余頭で対前年比1.3%増となっており、このうち東京都食肉市場の取引頭数は、13万3千頭余りで全国取引頭数の8.9%を占めている。

年間平均価格は、1kg当たり1,378円で、前年に比べ1.5%・20円高となっている。これを月別にみると、1月は1,387円と前年同月より79円安く始まり、2月以後5月までは1,300円台で推移し、6月に年間の最安値1,270円となった。7月以降は、再び1,300円台で推移した後、年末需要に支えられる12月は前年同月比37円安の1,555円であった。年末を除くと平均価格はほぼ1,300円台で推移しており、前年と比べ小幅な動きであった。

豚の全国取引頭数は、前年比0.1%増の1,915万2千余頭となっており、このうち、東京都食肉市場の取引頭数は、38万1千余頭で全国取引頭数の2.0%を占めている。

年間平均価格は、1kg当たり415円で前年に比べ17.3%・87円安くなっている。これを月別にみると、1月は安値傾向の前年に続いて、前月比29円安の393円で始まり、2月から7月まで、4月の年間最高値の488円を挟んで400円台で推移したものの、8月以降は再び300円台に落ち込み、10月には340円と年間の最安値となった。12月に入り、前月比24円高の370円とやや持ち直したが、前年同月比では52円安であった。